

# 児童図書館研究会 子どもと電子メディアを考えるプロジェクト

## アンケート「子どもはどのように本を選び、読んでいるのか」回答一覧

### アンケートの概要

#### 1) 調査目的

電子メディアを含めて、読み手である子どもがどのように絵本や本を選び読んでいるのかの事例を集め、整理し、分析することで、子どもにとっての読書の意味を考えるとともに、公共図書館や学校図書館が子どもに絵本や本、電子書籍をどのように提供していくのかを考える基礎資料についてまとめること。

#### 2) 調査方法

・協力依頼：児童図書館研究会機関誌「アンケートのお願い〜子どもと読書「こんな発見」「こんな経験」「図書館・あるある」募集」『こどもの図書館』（2022年1月号）および同会のホームページ

・回答方法：児童図書館研究会ホームページ内の回答フォームによるWeb回答、および機関誌2022年1月号に同封の回答票によるファクシミリまたは郵送での回答

#### 3) 回答期間

2022年1月10日（月）～2月28日（月）

#### 4) 回答者

児童図書館研究会会員および子どもの読書に関心をもつ人

#### 5) 回答数

145件

アンケートでお寄せいただいた145件の回答のうち、プロジェクトメンバーで検討・整理して、本調査の分析対象としてまとめた136事例の全文を掲載しています。

原則として寄せられた回答文をそのまま掲載しました。ただし、特定の名称があった場合は「○○」等に置き換えています。また、プロジェクトチーム宛のメッセージと思われる文は削除しました。

事例No.	媒体	年代	場所	年齢	性別	事例を具体的にお書きください
1	紙の絵本や本	2020年以降	家庭で	乳幼児（就学前）	男の子	絵本を読んであげるよと3歳の孫にいうと5～6冊の絵本をもってきた。どれから読むかという、絵本を床に広げだした。自分なりの面だし、フェイスアウトを行い、読む順番を決めていた。
2	紙の絵本や本	2020年以降	子ども文庫で	乳幼児（就学前）	女の子	「14ひきシリーズ」を借りたいというので、書架にあるシリーズを並べて見せる。お母さんが「14ひきのさむいふゆ」にしようかと聞くと、女の子は黙って「14ひきのごもりうた」を指さす。
3	紙の絵本や本	2020年以降	幼稚園で	乳幼児（就学前）	男の子	保育中に教師(私)が、読み聞かせて読んだ絵本『がたんごとんがたんごとん』『パンダ銭湯』『いろいろバス』『おばけなんてないさ』など、同じものを家庭で買ってもらったようで、「先生と同じのを本屋さんで買ったよ」「同じの、持ってるー」と嬉しそうに教えてくれました。集団の中で、聞く読み聞かせは子どもには特別楽しい時間です。楽しい時間、楽しい絵本の体験、思い出を家庭に持ち帰り、共有できることは、大変嬉しい限りです。
4	紙の絵本や本	2010年代	公共図書館で	乳幼児（就学前）	女の子	5歳くらいの女の子が「幼稚園にあるねん」と言って『モチモチの木』を持ってきた。「おじいちゃんがおなかいなくなつて、おいしゃさんにつれていくねん」「この木がびかびかするねん。ここ読んで」といろいろ話しかけてきました。
5	紙の絵本や本	2020年以降	公共図書館で	乳幼児（就学前）	男の子	2022年1月22日（土）、○○図書館（蔵書約95,000冊）に司書とパートさんの二人で勤務。普段見慣れないお父さんと男の子（年長さん：後でわかる）が、何か話しながらタッチパネルで検索している。司書（私）が「何かお探しの声か」と声をかけるとお父さんが「ケーキがころがる話」の本を子どもが探してほしいっていうけど、わからなくて」とのこと。『おはなしのろうそく』の棚をご案内し、『愛蔵版お話のろうそく ホットケーキ』を男の子に手渡す。男の子は、その表紙を見てマスク越しに満面の笑顔で目がキラキラと輝き、大きくうなずき「これ！」という。一応、お父さんと男の子に「この本は、昔話や楽しいお話がたくさん入っています。文章でお話を書いてあって、挿絵が入っています。ほかにも似たお話の絵本もいろいろあるけど、そちらはいいですか？」と聞く。お父さんが「これでいいの？」と男の子に聞くと「うん！」と大きくうなずき、その本を大事そうに抱えて、借りていった。 これとほとんど同じことが、2月26日（土）にもあった。別のお父さんと男の子（年長さん）がカウンターにいたパートさんに、「ケーキがころがるお話の本」があるか聞いていた。パートさんは『おだんごばん』を手渡すが男の子は「ちがう」と言い、懸命にストーリーを説明し始める。その後パートさんが、司書（私）に状況を伝えてくださったので、同じように書架にご案内すると、男の子は「やったー！これだ！」と大喜びで借りていく。お父さんに「似たお話の絵本もあります」と伝えると、「できれば絵本も借りたい。絵があったほうがわかりやすいから」とのことだったので、何冊かご案内すると、喜んで借りていった。 実は、1月21日（金）に、△△市在住のお話の語り手の方が、保育所の年長さんに訪問し語りを行っていた（ここ2年間ほど、年長さんのみ2回）。○○図書館では保育所の活動を知っていたので予想がついたことではあるが、子どもたちが「その本」を手にとった瞬間の笑顔は、何物にも代えられない喜びがあふれており、宝物を見つけ手にしたみたいだった。その瞬間に立ち会えたことを、図書館で働く司書として幸せに感じました。
6	紙の絵本や本	不明	家庭で	乳幼児（就学前）	男の子	私は息子が0歳のころから一緒に絵本を楽しんでいました。もちろん、はじめは私がいいなと思う絵本を選んで読んでいたのですが、繰り返し読んでいくうちに次第に息子の好きな本というのできてきて、「これ読んで！」と自分から絵本を本棚から取ってくるようになりました。一番最初にお気に入りになった絵本は『ももこもこ』谷川俊太郎文 元永定正 文研出版で、何度も読むうちに絵本を自分で取ってきては「ももこもこ」といつの間にか絵本のなかの言葉を覚えてきたようで、自分でつぶやきながらページをめくったりするようにもなりました。赤ちゃんや年齢の低い子どもの絵本選びということについては、まわりの大人の働きかけ—絵本を赤ちゃんや子どもの身近な所に置いたり、図書館など絵本や本のあところへ出かけたり、また、絵本や本と一緒に楽しく読んだりすること—が大きな影響を及ぼすのではないかと思います。
7	紙の絵本や本	2000年代	家庭で	乳幼児（就学前）	男の子	我が家では、寝る前に毎晩2～3冊の絵本を読んできた。長男が4歳のころ、川端誠さん（絵本作家）の、講演会＆絵本ライブを開催（○○図書館主催）。長女（8歳）と長男へサイン本をそれぞれプレゼントした（長男へは『いちがんとく』）。その何ヶ月か後に母が借りてきた図書館の絵本『たがや』を長男が見つけた。「これ、おなじ絵だ。これ読んで！」と持ってきて読むと、長女（8歳）も一緒にとても熱心に聞いていた。長男は「風来坊」シリーズも大好きでよく読んだ。プレゼントされたサイン本には、絵本のタイトルによって、ていねいな個別の絵が描かれており、自分の名前も書かれていた。それが幼い心にもうれしくて、心に届くものがあったのだと思います。川端誠さんの絵本は、その後新刊が出版されるたび購入したり図書館で借りたりして、楽しみながらすべて読みました。

児童図書館研究会 子どもと電子メディアを考えるプロジェクト

アンケート「子どもはどのように本を選び、読んでいるのか」回答一覧

事例No.	媒体	年代	場所	年齢	性別	事例を具体的にお書きください
8	紙の絵本や本	1990年代	公共図書館で	乳幼児(就学前)	男の子	カウンターに母親と子どもが本を借りきたとき、母親が子どもが選んだ本をみて、「その本、家にあるじゃない」という。子どもはどうしても借りたいのか、本を胸に抱きしめ、言い返す言葉を探していた。子どもは言葉が見つからずいたので、「その本好きなんだね」と助け船をだすと、子どもはこつくりとうなずいた。母親は解せない様子だったが、諦めてその本も一緒に借りて帰った。
9	紙の絵本や本	1980年代	公共図書館で	乳幼児(就学前)	男の子	絵本を読んでもらおうと順番を待っている5歳の男の子。さっき読んでもらったばかりの『三びきのがらがらどん』を膝に置き、別の絵本を抱えているお姉ちゃんのあとにすり寄るように座って、「もういっかいこれよんでほしいなあ、なあ、おねえちゃん」。
10	紙の絵本や本	2020年以降	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	写真絵本に興味を抱き、我が家にあった小寺卓矢の『いろいろはっぱ』と『森のいのち』を開いてしきりに眺めていました。いわゆる赤ちゃん絵本や物語絵本も何冊か用意したが、それよりも自然の色に興味を湧いた様子。毎晩、就寝前に読み聞かせをしてもらっているとも。
11	紙の絵本や本	2000年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	3歳になった頃、夕方、外へ行く行かないで揉めたとき、気分転換に「本読もうか」というと、「オニサン」と言って本箱から『しよとのおにたいじ』(稲田和子文 川端健生え 福音館)を持ってきた。言葉は少しむずかしいので簡略して語ってやる。満足して終わりまでしっかり聞いている。絵が好きなのかもしれない。
12	紙の絵本や本	2010年代	子ども文庫で	乳幼児(就学前)	男の子	3歳の男の子。機関車トーマスが大好きで、『汽車のえほん』シリーズを読んでもらおうと何冊も抱えて、テーブルの上に並べ、そのうちの1冊を選ぶ。読み聞かせを始めると、一生懸命聞いているが、途中わからない様子もあり、質問に答えたりしながら1話を読み終わる。すると「次にこれ読んで、次にこれ読んで、次にこれ読んで……」と順番を決めながら、テーブルの上の本を並べ替える。「そんなにたくさん読めないよ」と言っても構いなし。その後も1話読み終わるたびに、「次にこれ読んで」を繰り返す。
13	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(2歳0ヶ月19,20日)『おひさまがいっぱい』最近はずっと、この本でねんね。心地よいか、すぐにうとうととなる。「ねずみさん、なんしたはる?」「ニヤンニヤン、なんしたはる?」「なんしたはる?」ぽっかり言っている。
14	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	11ヶ月の時に『もうねんね』の絵本の文句を「ねむたいよう、おやすみなさい、わん」と絵本は持たずに言い始めると、嬉しそうに笑って、いつもその絵本が置いてある所へ取りに行きました。(その時は『もうねんね』は見つけられなかったが)いつも全然聞いていないようだったので興味がないのかと思っていましたが、私たちが思う楽しみ方とは違う方法で楽しんでいたので発見できた経験でした。
15	紙の絵本や本	2010年代	子ども文庫で	乳幼児(就学前)	男の子	友だちが読んでいた本を自分も読みたいけれど題名が分からない。本を見たら分かるので本の大きさや友だちが「この辺にあった」ということばを手がかりに本棚を探している。大人が「どんな本をさがしているの?」とキーワードを聞き出して一緒に探し出すこともある。探している本が見つからないと他の本では気が済まない子、探している途中に出会った本に目移りしてしまう子、探している子に、その本がいたら次ほかがかりと予約する子、さまざまであるが、幼児くらいでは、本を探す、本をいじる手に取る、ことを面倒がる様子はあまり見ない。小学生に入ると、ざっと見渡して「読みたい本がない!」と言って出ていってしまうこともある。
16	紙の絵本や本	2020年以降	公共図書館で	乳幼児(就学前)	覚えていない・はっきりしない	図書館職員が、返却された絵本を元の本棚に戻していると、しばらくついてきたり、じっと見たりした後、棚に戻したばかりの絵本をばと取って、それを持っていく。それ自体に興味があったのか、職員が戻しているものにも興味があるのかは不明。職員に触ってきたり、「それ借りる」と言ってきたりすることもある。たいがい、子ども単独で職員とやりとりすることが多い。
17	紙の絵本や本	2000年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	5歳になる少し前のこと。なんか真剣に考えていて。『ておんをさがせ』イウホン、アツセロ。アンコクセイウン、ギルゴル、ウズマキ……。ナンデヤロ?」人に借りたその本はもう手元になく、私(祖母)は下手に自分の考えを言っていて、何をどう思い出したのか訊けなかった。読んでやったのは、一年くらい前にことだった。
18	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(1歳1ヶ月24日)『がたんごとんがたんごとん』本を開いて、読んでもらう時にいつもするように、がたんごとんがたんごとんと体をゆらす。本物の電車が通るときも体をゆらす。
19	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(1歳2ヶ月19日)『ぶーぶーぶー』『きいろいじどうしゃ ぽぽぽぽ』と読むと「ぽぽぽ」と真似をした。「のりまのります カタコトカタコト」でリズムにのって体を揺する。
20	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	"娘〇〇(12歳)の赤ちゃんの時の記録をとっていた中から抜粋したものです。触ったり、言葉を真似したりするところから始めて、お話を楽しむようになり、自分で真似して読んだり、それからオリジナルのお話を作って読んだり、それぞれ成長の過程でいろんな楽しみ方をしていました。特に2歳以降は絵本から仕入れた言葉を生活の中で使ってみたり、日常の中に絵本で見たものを見つけて喜んだり、同じことをして遊んだりということが増えていて、絵本と生活お互いに作用しあって、成長も楽しみも倍増している感じがします。大きくなった今でも、小さい頃に絵本や読み物から得た言葉や言い回しを使ったりしますし、本で出会った"友達"やエピソードの話も、ちよいちよい出てきます。(1歳1ヶ月9日)『ごぶごぶごぶ』穴に指をかけてページをめくっていくのが好き。「さわさわ」のページにはいろんな丸をこすって穴を探す。
21	紙の絵本や本	1990年代	公共図書館で	乳幼児(就学前)	女の子	平日の午前、図書館の赤ちゃんコーナーで2歳ぐらいの女の子におばあちゃんが絵本の読み聞かせをしていました。今度、何読もうか、これどうかなとの会話がとても微笑ましくみえました。ちょうど、朝の日差しが二人を照らしていました。まだ、開館したばかりで静かな図書館の空間で2人は時間を大切に楽しんでいるようでした。
22	紙の絵本や本	1980年代	公共図書館で	乳幼児(就学前)	男の子	おかあさんと男の子、その遊び友だちらしい男の子たち3人、おかあさんに「いたずらきかんしゃちゅうちゅう」を読んでもらっている。3人はだまって絵をじっとみて聴いている。ちゅうちゅうが跳ね橋を飛び越える場面でもひらがつぶやく、「落ちんねんで」。ほかの子が、「そやう」。ページがめくられる。3人はひたすら聴きつづける。
23	紙の絵本や本	2020年以降	子ども文庫で	乳幼児(就学前)	男の子	5歳男児。ほかの利用者に自分の好きな本をもってきて、お勧めする。『せんたくかあちゃん』を手に入れている同じく歳の女の子に、『くもりのちはれせんたくかあちゃん』を渡したり、特別支援学級の先生に『サンドイッチつくろう』を渡したり、それなりに的確。

児童図書館研究会 子どもと電子メディアを考えるプロジェクト

アンケート「子どもはどのように本を選び、読んでいるのか」回答一覧

事例No.	媒体	年代	場所	年齢	性別	事例を具体的にお書きください
24	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	男の子	近所に住んでいる娘が二人目を産出し、赤ん坊を連れて実家のわが家に戻ってきた。上のお兄ちゃんは5歳。生まれたての赤ん坊は座布団で上を向いて、一体ここはどこだろうと手足をバタバタさせていた。お兄ちゃんをはじめどう対応してよいか分りかねていたが、突然、絵本の棚から『だるまんが』を取り出して、自分も仰向けになって赤ん坊に読み聞かせをはじめた。お兄ちゃんからすると、弟とのコミュニケーションの方法として絵本の読み聞かせをしたのだと思う。
25	紙の絵本や本	2000年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	家と保育所で絵本を親しんでおり、『もこもこ』が大好きで、くり返しくり返し読んでいました。
26	紙の絵本や本	2000年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	覚えていない はっきりしない	図書館に来ていたお母さん同士の会話で、こんな話をしていました。 せなけいこの『ねないこだれだ』について、こどもが「すごく好き。何回も借りている。もう全部覚えて自分で読んでいる」「『ねないこだれだ』を読み始めるとバツと起きる」と、ひとしきり話題になっていました。
27	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(2歳0ヶ月6日) 『ぼくしんかんせんにのつたんだ』細かいところまでよく見て「ライオンさん、なにをしたはんの?」「うさぎさん、なにをしたはんの?」「これは?」と質問責めで、なかなかすんなりと読めない。
28	紙の絵本や本	1979年以前	公共図書館で	乳幼児 (就学前)	男の子	おはなしの時間に『シナの五にんきょうだい』を読んだ。すぐ前に座った男の子、いちばんうえのおにいさんが海の水を飲み干して顔がまんまるになる場面で、自分では気づかず頬をぶうっとぶくらませて聞いていた。
29	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(1歳1ヶ月25日) 『おにぎり』自分で取る真似はしないが、こちらが取る真似をして口に差し出すと食べようとする。(本当に食べようとしているのかも)
30	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(1歳2ヶ月1日) 『ねないこだれだ』ネコを指差して触る。本物のネコに触るように、ちゃんと触ってすぐ手を引っ込めてニヤッと笑う。実物の猫に触る時と同じやり方だった。
31	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(1歳3ヶ月14日) 『おつきさまこんばんは』これも最近よく持ってくる。「おつきさまこんばんは」とタイトルを読むと、まずベコベコとおじぎ。そしてネコを触り、「あ、おつきさまだ」「うわ!」と声をあげ、「おつきさまこんばんは」で、またベコベコおじぎ。「おつきさまがないちゃう」で「あー(あーんあーんのつもり)」。「ではさようなら」でおててをひらひらさせてバイバイ。「まんまるおつきさま こんばんは」で、またベコベコおじぎ。と合の手をいれてくれる。
32	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(1歳5ヶ月28日) 『バナナです』ひたすら絵のバナナを食べる真似をして遊ぶ。最初は絵を指差して、口をもぐもぐして、私に食べさせると言うので、バナナを取って食べさせる真似をする。それから自分でもバナナを上手につまんで、口をもぐもぐさせて「しいー(おいしい)」と言う。「お母ちゃんにもちょうだい」と言うと、私にも食べさせてくれるし、「くーまちゃんも欲しいって」と言うと、くまのぬいぐるみにも食べさせる。
33	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(1歳6ヶ月22日) 『バナナです』前からバナナの絵を取って動物たちに食べさせる真似をするのだが、最近は食べさせる時に「まんまんま」と言って、食べる感じを出している。自分が食べる真似をする時も同じ。そして「あいしー(ああ、おいしい)」と言う。
34	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(1歳7ヶ月17日) 『どうぶつのこどもたち』自分で絵本を見つけてきて、一人で「ウワンウワン(ワンワン)」「パウパワー(パオパオ)」「ゾウさん」「きいん(きりん)」「バッカカー(馬の足音)」「アイアイ」「ニャンニャン」などと言いながらパラパラ上手にめくって見ていた。 『おやすみなさいコッコさん』ねんねの時、急に「コッコさん! コッコさん!」と言い出したので読んでやる。「コッコはねむらないもん」の後「もん!」とまねする。コッコさんがくまちゃんと一緒に寝ている場面を見て「おーとん!(お布団)」「まーま!(くま)」と言って自分もお布団をかぶってくまさんと一緒に寝ていたが、自分のくまさんにはぼうし(スカーフ)がかぶせてあって、そこが絵本と違うのが気に入らなかつたらしく、「ぼーし! ぼーし!」と訴える。スカーフをとってやると満足した様子。 『おにぎり』お友達と遊んでいるときに読んでやった。のりを巻いたおにぎりいっぱいページで「わあ!」と△△ちゃん(お友達)。おにぎりをとるまねをして○○にやると、「まんまんま、あいし!(ああおいしい)」とやる。「△△ちゃんにもあげて」と言うと、とるまねをして△△ちゃんに差し出し、△△ちゃんも、○○の手から「まんまんまー」と食べる。その二人の姿のかわいいこと。ちゃんとお友達と遊べるようになったのだなあと成長を感じて嬉しくなった。
35	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(1歳5ヶ月30日) 『あそぼうよ』最後のお月さまのページがなぜか大好きで、「あつー!」ときゃきゃ言う。最初のページの「おはよう」で頭をべこりと下げる。自分でめくりやすいからか、一人でめくりたがる。一人で見ていて、「ないねー」「ないねー」「ないねー」とページをめくって行って、最後のお月さまのページで「あ! あつあつ!」と言うのを繰り返す。絵本の中の食べ物を食べる真似をしたりするのは、私が仕掛けたことだけれど、この遊びは自分で考案したので驚いた。言葉が話しかける調子だからか、読むと相づちをうつ。「はんをよんでもいいし」「あい(はい)」「おはなをつんでもいいし」「あい」「○○してもいいし」「うん」という感じ。 レオレオ二は好きだけれど、お花をつんだり、まだしたことないし、かくれんぼなんかも、ネズミがやっているのだからわがりにくいなと思ったが、本人はいくつかの好きなページがあれば他は気にしないという感じで気に入った様子。
36	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(2歳0ヶ月8日) 『おおきなかぶ』「ひっぱたはる」といちはい言って喜ぶ。ネコが出てくるころまでくると、「ねずみ、きやるかな(来はるかな)? こんど」と言い、ねずみが出てくると「きやるつた(来はつた)! きやるつた!」「おもしろいなあ」と言う。

児童図書館研究会 子どもと電子メディアを考えるプロジェクト

アンケート「子どもはどのように本を選び、読んでいるのか」回答一覧

事例No.	媒体	年代	場所	年齢	性別	事例を具体的にお書きください
37	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(2歳0ヶ月22日) 『またもりへ』『ぞうさん、なんしたはる?』『くまん、なんしたはる?』と、これも「なんしたはる?」を連発する。今日はこの絵本がいいみたいで、父にも何回も読んでもらっていた。うさぎが出てくるページで、「(うさぎが)○○ちゃん、みたはるー!」と言う。そして「○○ちゃんもみるわな!」と言って絵本を覗き込んで喜ぶ。
38	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(2歳2ヶ月10日) 『ぼくしんかんせんにとつたんだ』初めから終いまで、口を挟んで挟んで、なかなかすんなり読ませてくれない。「うさぎさん、しんかんせん待たはんねん」「小さいカメさん、おかーさん!」って言うたはんねん「あ、牛さんがいるよ!」「それ、いのししや」と私。「いのししさんか、めがねかけたはるよ」そして、もう話を覚えているので一緒に「ねえ、パパ」というセリフを言って、「一緒に言うたわ」と言ってみたり。「くまん、おいしうやなーって見たはんねん」と、私が読んでいるのを盗って喋っておいて、いきなり「読んでよ!」と言ったり、読んでいる途中に「お母ちゃん、何してんの?」と聞いたりする。「読んでんにゃん!!」と答える。お風呂で手桶を使ってお湯をまいて「ね、ひとつひとつちゃんとかけてやっています」と『ちいさいうさぎちゃん』のふわふわさんの真似を、このところ毎日やっている。最近はこの本、あまり読んでないのだけれど、「しみついている」のだなあと思う。
39	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(1歳8ヶ月17日) 『ルルちゃんのくつした』一人で読んでいた。靴下がなくなつて困り顔のルルちゃん「ちゅちゅた(靴下)ないねー」靴下をぬいでポイとしていた。「ポイ!あーあー」先生にきく「せんせ、しんない(知らない)」「ゾウさんがマスクにしている」「ゾウさん、マスクマスキュー」泣いている靴下「あーんあーん、いたいたい」ごめんなさいぬくつしたさん「ごめんね、ちゅちゅた」何度か読んだだけでこんなに覚えていてびっくりした。「せんせい」なんてなじみがない存在だし、マスクもほとんど知らないはずなのに。
40	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(2歳1ヶ月27日)『ぼくバトカーにとつたんだ』 昼に2回読んだら、夕方もう覚えて自分でもところどころ読む。「ブーブーとせんたくやさんがやってきました。」「チリンチリンとベルをならして。」「ぼうや、あぶないぞ!」くまくんのお母さんがくまくんを探して「じてんしゃもないし・・・くまー!くまー!」と呼ぶところなんかは、真に迫っていて、とても上手。
41	紙の絵本や本	2010年代	公共図書館で	乳幼児 (就学前)	女の子	図書館の児童コーナーでひとり音読中の女の子(親は近くにいたと思うが、隣にはいなかった)文字が読める年齢よりは幼く見えたので、耳で覚えたおはなしを声に出しているのかと思ったら、絵を見ながら自分で作ったおはなしを「朗読」していた。「すると、お花がさいていました」等、接続詞を使って、いかにも文章を読んでいる風な様子に、普段からよく本を読んでもらっているんだらうなと想像した。ちなみに、広げていた本は『桃源郷ものがたり』(福音館書店)
42	紙の絵本や本	1990年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	男の子	「字が読めない幼児が絵本をひろげて」 家にあった『ろくべえまてろよ』をはじめ手に取った男の子。ページをめくってしばらくながめてから、夕食を作る母のそばのテーブルに持ってきて絵を見ながら語り始めました。「こどもたちはがんばれといました」「いぬはしよんぼりねてしまいました・・・絵に描かれた表情や動きを捉えて結びつけながら物語の進展を想像して、お話にして聞かせてくれました。連続する絵を見ただけで子どもの中にストーリーがいきいきと動いて見えていることに驚き、この絵本の力を再認識しました。 (“しよんぼり”は『ぐるんばのようちえん』から仕入れた言葉だったと思います)
43	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(1歳3ヶ月8日) 『はらぺこあおむし』何か聞いたことのない調子で喋っているなと思ったら、『はらぺこあおむし』を自分で持ってきて、開いて見ていた。読んでいるつもりみたい。
44	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(1歳11ヶ月6日) 家事の間、放っておくと、機嫌がいい時は一人で次から次へと絵本を引っ張り出して、ずーっとお話をしている(読んでいる)。色々喋るようになったな、とそのことばかりに目がいくが、よく考えてみると、いつのまにかちゃんと想像力が育っているということだなと気づく。
45	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(2歳8ヶ月11日) ピーターラビットの中一冊を開いて読み出す。「うさぎのあーちゃん」これは題名らしい。なので一枚めくってもう一度「うさぎのあーちゃん」そして私の方を見て「これあーちゃんっていううさぎなん。」と言い「ある日、あーちゃんは・・・」と始める。掃除中で内容はメモをとれず残念。王さまなんかも出てきていた。しばらくすると同じ本の題名が「あさごはんのしたく」に変わって、また読んでいた。この、ちゃんと題名をつけて、それを初めに3回くらい読むところが面白い。絵本というのはこういう風に始まるものだ、としみついているのだらうなと思う。
46	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児 (就学前)	女の子	(2歳8ヶ月14日) 『ふたりはともだち』を自分で読む。「おてがみ」のころを聞いていると、ちゃんとカタツムリに手紙を入れてきてくれたのんだり、「カタツムリはまだきません」と何度も繰り返したり。思ったよりも話を理解している様子だった。こういうだいぶ難しい絵本(ピーターラビットとか)は、○○が完全に理解できる絵本とは違う楽しみ方しているのかなと思う。ストーリーを楽しむというよりは、読んでもらっている、その感じという空気が好きとか。題名から始まって、「お話」を読むときの抑揚であるとか、終わる時に少しテンポが落ちて、「おしまい」と終わる感じとか。真似して一人でピーターラビットのシリーズなんかを読んでいるのを見るとそう思う。題名はちゃんと2回か3回「読んで」どころどころ覚えている言葉なんかを取り入れながら、本当に上手に強弱をつけてよみ、「○○でした」とかなんとかで話が終わり、最後は「おーしーまい、まいまい」(まいまい、とつけるのが好き。ちゃんちゃん、みたいなものだと思う)と締める。ピーターラビットでは「にばしや」や「おくさん」がちゃんと出てくるのが面白い。ごはんの時にもずくを食べながら「私、ちゃんと噛んでる!」という。何でそんなことを言うのかと思っていたら「はははのはなしにのつたな。」と言う。(ごはんの前に読んでいた。) 「ああ、噛まへんかったら病気になると書いてあったなあ」と言うと、「私、ちゃんと噛んでるから病気にならへんもーん!」と言う。

児童図書館研究会 子どもと電子メディアを考えるプロジェクト

アンケート「子どもはどのように本を選び、読んでいるのか」回答一覧

事例No.	媒体	年代	場所	年齢	性別	事例を具体的にお書きください
47	紙の絵本や本	2020年以降	子ども文庫で	乳幼児(就学前)	女の子	2歳の女の子。たまたま『くだもの』が2冊あることに気づき、2冊並べて、めくりながら絵を比べて「おんなじ、おんなじ」と繰り返す。そのままに『おんなじおんなじ』を読んだので、その言葉がぴったりで、うれしそうだった。
48	紙の絵本や本	2020年以降	子ども文庫で	乳幼児(就学前)	女の子	『ないしょのおともだち』が大好きな女の子が、書架に続編の『ないしょのかくれんぼ』が並んでいるのを見つけ、2冊の絵を比較しながら読んでいる。続編なので、同じ家の内部や家具が描かれているのが、楽しい。
49	紙の絵本や本	2010年代	公共図書館で	乳幼児(就学前)	男の子	2歳の男の子が、福音館書店のブルーナの絵本を書架から大量に出してきて、タイルのように敷き詰めたり、積み木のように積み上げたりしていた。まだ本人が楽しめる本は限られているが、2つ上の姉が本を読んでもらっておもしろそうにしているのを知っているので、自分も本をさわって、関わりを持ちたかったらしい。片付けようよ、と声を掛けたら、「だめー」と本の上に覆いかぶさった。
50	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(1歳9ヶ月1日) 『のせてのせて』絵本のない時に『のせてのせて』の話をする。(そうじきのにっていたので車のつもりだったのかもしれない)「みんなのっ！」とか「トンネルトンネル、まっくあまっくあ」と言いながら遊ぶ。
51	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(1歳11ヶ月6日) 手芸の材料(刺繍糸)の箱を開けて「わたしのワンピース(ワンピース)をつくらーっ！」と言う。
52	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(2歳1ヶ月21日) 『ピエールとライオン』何回も読んだ。面白い。「はい、わかりました！」を二人で言い合って遊んだ。 (2歳5ヶ月20日) 「アイスコーヒーできたよって言うたら、ハーイって言うてね！」と聞こえたので「はいー」と返事をする。「わかったかしら？」と聞いてくるので、「わかりました」と答えると「ピエールみたいに言うて！」と言うので「ハイ！わかりました！」と『ピエールとライオン』の真似で答える。
53	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(2歳0ヶ月24日) 『もりのなか』くまがピーナッツを数えるのがとても好きらしく、「おまめかぞえたはるー！」とものすごく嬉しそうに言う。絵本を読んでいる時でも「くまさん、おまめかぞえたはるねん」と言って遊んだりする。公園の池に大きな鯉がいて、水面にあがってきたら「ほかって！！」と言う。「ほか」というのは『おふろだいすき』でカメが出てくる時の音。覚えた言葉をちゃんと応用している。ベランダに足を出して、「にわさきでみてるねん」と言う。「にわさき」なんて言葉をなんで知っているんや？と思ったら、『つきよのぼんのさよなら』で、男の子が縁側に座って庭を見ている場面で、この言葉が出てくるのだった。縁側から足を出している感じとよく似ていたからだろう。
54	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(1歳9ヶ月29日) 『むかでのおつかい』遠藤 君・難波尚子/文 岡田淳/絵 月間絵本フレンドシリーズ 「むかでの医者むかえ」を絵本にしてある。むかでが「しっばいしっばい」と言うところを気に入っていて、真似をする。
55	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(1歳10ヶ月3日) ごはんを食べている時にコップを倒して「しっばいしっばい」と『むかでのおつかい』の絵本の中のことばを使う。
56	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(1歳11ヶ月15～18日) 『ぼちぼちいこか』文を覚えて、時々「ま、ぼちぼちいこかということやー！」と言ってくれるので、イライラがフツとほぐれて良い。こちらも読みながら「そやそや、ぼちぼちいこか」と思えるので、子育て中には、そういう意味でも良い絵本だと思う。
57	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(2歳1ヶ月3日) 父に「かいだん、とぼとぼおきてきー」と言う。「とぼとぼ」の意味はよくわかっていないみたい。これは『あくたれルルフのたんじょうび』に出てくる言葉。
58	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(2歳1ヶ月14日) 皆で散歩に出かけた。夫が先に行くと、〇〇が「ぼくたちもいきますよー」と『もりのなか』のくまのセリフを言って、私の方を見て「くまたち、やな」と嬉しそうに言う。
59	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(2歳1ヶ月21日) Tシャツを着る時に「うーんうーん、ってペドペ言わはんねん。シャツ着るのむっかしー！って」と、何でもすぐ絵本に繋がるみたい。
60	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	女の子	(2歳11ヶ月9日) 外で走って転んで「はじめてのおつかいみたいやな！」と言う。そして「こうしゃはるやろ？」と「みいちゃん」の真似をしてケンケンする。
61	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	乳幼児(就学前)	男の子	『じゃあじゃあ ひりひり』は、私が甥の子どもが誕生した時にプレゼントした。男の子は4才になっても、おもちゃ箱に入れて大切にしていた。そして、私に楽しそうに読み聞かせをしてくれた。

児童図書館研究会 子どもと電子メディアを考えるプロジェクト

アンケート「子どもはどのように本を選び、読んでいるのか」回答一覧

事例No.	媒体	年代	場所	年齢	性別	事例を具体的にお書きください
62	紙の絵本や本	2010年代	保育園で	乳幼児 (就学前)	男の子	只今、高校2年生の息子が保育園年長のころのこと。ある朝、保育園児の息子が朝食のテーブルでなんの前触れもなく「よく、八方にらみねこ！」と大声で宣言をする。一緒にいた家族は突然のことで驚く。「八方にらみねこ」という言葉がなぜ出たのか分からないまま月日が過ぎた。たまたま公共図書館でふと『八方にらみねこ』という本が所蔵されているか検索すると、見事にヒット！読んで、息子の行動に思い当たった。当時、自宅では猫を飼っていた。猫は食事時になると、何か食べ物落ちてこないか息子の足をウロウロし、少しでもこぼすものなら、恐ろしい形相で息子を威嚇して拾い食いしていた。我が家の力関係でいうと、息子は5人と猫1匹の家族の中で、一番下であった。また、保育園の生活では、乱暴なことは嫌いじっくり考え行動する息子は、力の強い男子に「弱い」と、こちらでも力関係では下に見られていた。息子は保育園でたまたま読んでもらった『八方にらみねこ』の話に惹かれたのだ。ある時から長髪だった髪を「男になる」と坊主にし、保育園で電車に乗って出かけるときは時刻表を調べてみんなの前で発表したり、と堂々としていった。息子は当時、多くを語らなかつたが、『八方にらみねこ』の絵本に自分を重ねたことは見当がつく。息子は当時、自分が保育園で弱いと思われることやされて嫌だったことを、家族の前では絶対に話さなかつた。思い出として話すようになったのは、小学校高学年になってからである。嫌な記憶を思い出したくない、とも言っていた。だからこそ、当時、息子の心を支えてくれた絵本だったのだろうなあ、と今も思っている。
63	電子書籍	2020年以降	家庭で	乳幼児 (就学前)	男の子	GIGAスクールで小学3年生の孫がiPadを持ってきました。3歳の弟がいろいろ操作をして、翌日、お兄ちゃんは先生にこっぴどく叱られたそうです。
64	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	小学校低学年	男の子	車が大好きな男の子。借りるのはいつも絵本以外の車の本。クリスマス本として飾ってあった『急行北極号』の表紙を目に留め「カッコイイ」と喜んで借りて行きました。2度も。
65	紙の絵本や本	2000年代	公共図書館で	小学校低学年	女の子	表紙の絵を見て本を選んでいる子が多かった。 書架に並んでいる本はタイトルだけの背表紙がほとんどなので、面展示している本の中から好みの絵の本を手に取り中をめぐって面白そうと思った物を借りていった。 図書館職員があらずじを紹介したり、面白いポイントを説明すると興味を持って読んでくれる子が多かった。
66	紙の絵本や本	2010年代	小学校の特別支援教室で	小学校低学年	男の子	字を読むこと、覚えることが苦手な小2の男子。小1までは普通学級で過ごしていたが、字をなかなか覚えられない、書けない、ということで、小2の1学期から支援学級に籍をおく。字を覚えることが困難な彼は、パソコンで一日日記を書き、赤ちゃん絵本や紙芝居を読んでもらう、ということから始める。彼は、パソコンを使うということが大変喜び（しかし、毎日パソコンに向かったが、たった一行でも、打つことはなかなか早くにはならなかつた）、赤ちゃん絵本や紙芝居を読んでもらうことも大変な喜びになった。3学期、彼は字を覚え、絵本をよむことができるようになると、「読んで」「次はこれ読んで」と、棚にある絵本のタイトルを見て話を選んでもってくるようになる。最初の頃は、表紙の絵の雰囲気を選んでいく彼だった。そして、字が読めるようになると、「読んでもらおう」喜びから「一緒に読む」喜びへと変わり、ついに「読んであげる喜び」へと移っていった。字が読める喜びは、普通学級でみんなと一緒に勉強したい、という気持ち（字が読めないという恥ずかしさを隠さなくてよくなり、自分が読めるようになった、というアピールをしたい）になる。字を書くことが苦手ならばパソコンを誰よりも上手に使えた方が彼の将来にとっても良いのではないだろうか、との取り組みだったが、当時の彼に必要なものは絵本を読み、楽しむことだった。彼の支援学級の担任も、楽しいことは続くから、と絵本や紙芝居を積極的に取り入れていた。この担任の先生も彼にとって必要な人だった。ほかの先生だったら、こうはいかなかつたと思う。当時、小学校の特別教育支援員をしていた私が、その彼の絵本の読み聞かせを担当していた、忘れられない出来事である。
67	紙の絵本や本	1980年代	子ども文庫で	小学校低学年	女の子	小1か、小2のとき、『はじめてのキャン』『みどりのたね』（福音館書店）をよく借りていた。内容もさることながら、絵本のように大きくなくて、ページ数があるところが、「大きい子の読む本」みたいで好きだった。
68	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	小学校低学年	-	先の座談会の記事を拝見し、低学年の児童がピーターラビットのシリーズを借りていく姿を思い出しました。書架の空いたスペースに面出ししておく、本のサイズに惹かれて次々と手を伸ばす人が多くいます。また「わたしにもおすすめの本を教えてください」と声をかけてくれた子どもに「～さんとお揃いのピーターラビットの絵本にしませんか」と紹介すると、借りてくれることが多いです。サイズに魅力を感じて手に取る、誰かと同じ本を借りる、どちらも本に形があるからできることで、紙の本は子どもの成長と合っているように思います。
69	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	小学校低学年	男の子	小学1年の男の子。「字がたくさんある本を読みたい」と図書館へ来る。本をめくりながら、「あ、これ、字が早い！」と選ばなかつたのは『おおきな木』（シェル・シルバスタイン作 村上春樹・訳 あすなろ書房）、「これ、字が多い」と借りたのは、「はれぶた文庫シリーズ」の中から選んだ1冊。私が「字が早い、ってどういう意味？」と尋ねると、「えーつとね、字が少ないから、早く読めるって意味。」彼は、字が多い本を選ぶ（読む）＝（選書）（読書すること）を褒められるということで、字が多く書かれている本を借りていく。それからしばらくは、はれぶた文庫シリーズから、中身をめぐることを繰り返している。
70	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	小学校低学年	男の子	お昼の放送で読んだ絵本をクラスで借りて来た時に、「これが読んだ本です」とひと言紹介。借りて行ってくれました。『おどりとら』
71	紙の絵本や本	2010年代	学校図書館で	小学校低学年	男の子	「2年生おすすめの本」の本のコーナーで、『もりのへなそうる』を開いて見ていた男児が、「エルマーと色ちがいのりゅうがいる」と友だちに見せていた。見せられた数人で、ページをめくって点検。「次、読むから早く回して」と言っていた。
72	紙の絵本や本	1990年代	公共図書館で	小学校低学年	-	アーノルド・ローベルの「ふたりはともだち」や佐藤さとの物語など学校教科書やテストなどで読んだものの続きを図書館に探しにくる子どもがよくいたように記憶しています。
73	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	小学校低学年	男の子	ピーターラビットのシリーズがお気に入り。借りる時に「この本100年も前に書かれたんだよ」と伝えたら、「え～、その頃はうさぎがしゃべってたの？」と驚くような嬉しいことを言ってくれました。

児童図書館研究会 子どもと電子メディアを考えるプロジェクト

アンケート「子どもはどのように本を選び、読んでいるのか」回答一覧

事例No.	媒体	年代	場所	年齢	性別	事例を具体的にお書きください
74	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	小学校低学年	女の子	先生が自分の娘のために好きな本「おぼけのアッチ」シリーズを借りて行く。子どもに頼まれたそう。
75	紙の絵本や本	2020年以降	公共図書館で	小学校低学年	男の子	斉藤洋氏の「おぼけずかん」シリーズを次々に借りて来ていました。「マジックツリーハウス」のシリーズに注力している子もいて、順不同で読めるシリーズものは、安心して（選ぶ本棚で『いやいやえん』を見つけて借りようとする。読まれ読まれて色も褪め、傷み激しい本。なかなか買い替えも難しい時代に、たまたま、買い替えた新しい本が届いたばかりだったので、こぞとばかり、新しい本を見せると、その子はじっと見比べたあげく、読まれ読まれてくたいたになった方を借りていった。
76	紙の絵本や本	1979年以前	公共図書館で	小学校低学年	男の子	図書館の児童コーナーで9（文学）の棚に並んでいる本から「この“くまんマーク”の本が面白いんだよね」と（当時の福武書店の幼年向けの本の背表紙についていた絵）本を選んでいる子がいた。
77	紙の絵本や本	1990年代	公共図書館で	小学校低学年	女の子	図書館の貸出カウンターに『エルマーとりゅう』『エルマーと十六びきのりゅう』を持ってきたので、『エルマーのぼうけん』はもう読んだの？』と聞くと、「うん。今日、学校でビデオ見た」という返事でした。続きを読もう、と思ってくれたのがうれしい出来事でした。
78	紙の絵本や本	2000年代	公共図書館で	小学校低学年	覚えていない・はっきりしない	小学校で読み聞かせボランティアをしている（始業前の15分）表紙を見せると「知ってるー！」と言う子がいるのはよくあること。そうやって口に出す子ほどよく聞いていたりするので、大抵構わず読み始める。その日は複数の子が「知ってるー！」と唱えたので、敢えて「じゃあ、やめる？」と聞いてみたところ「えー！」「やめないでー」読んでーと次々に反論が。「知ってる」というのは、「（面白い本だということを、自分は）知ってる」ということなんだらうなと思う。
79	紙の絵本や本	2010年代	学校の教室で	小学校低学年	-	私はボランティアで年に1〜2回児童館へブックトークをしに行っていたことがあります。20〜30分くらいの間に5〜7冊くらいの本や絵本を小学校低学年の子どもたちに紹介するのですが、トークが終わった後、しばらく紹介した本を前に並べて子どもたちや児童館の先生方と話をしたりします。そのとき、紹介した本をすぐに手に取って読み始める子どもや「もう一回この絵本読んで」と言って、本を持って帰る子どもがいたりすることがあります。小学生になると自分の好きな本を自分で選んで読むことが多いと思いますが、紹介してもらった本に興味を持つことも本選びの中が広がるきっかけになると思います。ですのでブックトークでは一つのトークの中でテーマに沿っていろいろなジャンルの本を紹介できるように心がけていました。また、紹介してもらってすぐに手に取らなくても、後で「あの時紹介してもらった本だ！」と思いつき、どこかでその本を見つけて読んでもらえればよいなと思っています。
80	紙の絵本や本	不明	児童館で	小学校低学年	-	小1の甥っ子に昔話を朗読。読み終わると「これってほんとうにあったおはなし？」と聞かれた。「どうかなあ」と相槌を打つと、「多分ほんとうだよ」と自分で納得していた。もう少し幼ければ、おはなしの全てを疑問なく受け入れてしまうだろうし、もう少し大きければ、おはなし（＝作り話）と承知した上で楽しんだかもしれない。この年齢ならではの反応なのかも。
81	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	小学校低学年	男の子	こどものとも『べにろいやるのおにたいじ』を読んでいた。自分もべにろいやると鬼と一緒にテントの中でいろいろな色の麦わらをよりわけているように感じていた。当時は麦わらのストローでシャボン玉を吹いていたが、すぐに麦わらにヒビが入って吹けなくなったり、うつくしい麦わら細工の箱を持っていたこともあり、麦わらには大変思い入れが強かったことも覚えている。
82	紙の絵本や本	1979年以前	家庭で	小学校低学年	女の子	テーブルに『マザーグースのうた』第5集を広げて読んでいる。「うみがみんなひとつのうみだったら」のページ。「おおきなひとがおおきなおででおおきなきをきいたらどんなにおおきなみずびきがあがるだろう」と読んで、「すごい！」と大きく息をついた。
83	紙の絵本や本	1990年代	公共図書館で	小学校低学年	女の子	おはなしの時間に『ちいさいおうち』を読む。2年生を中心に数人。読むうちに、絵本の絵が部屋の中に広がっていくのが感じられるふしぎな感覚を味わい、驚く。
84	紙の絵本や本	1980年代	公共図書館で	小学校低学年	女の子	兄妹。兄が6歳、妹3歳くらいの頃。少しずつひらがなが読めるようになった兄が絵本を妹へ読み聞かせしていた。途中読めない字があったようだが、そこはとぼしながら一冊読み切った。妹が真剣に絵本を見つめながら、兄の言葉をじっと聞いていた。2人が本へ集中してた姿が印象的だった。本のタイトルは忘れてしまった。
85	紙の絵本や本	2000年代	家庭で	小学校低学年	男の子	小学1年生 女の子二人。学校で約束して文庫に来る様です。文庫の棚に2冊並んでいる絵本を借りていく傾向あり。主導する子の好みやその子の家にある絵本を推薦しています。
86	紙の絵本や本	2020年以降	子ども文庫で	小学校低学年	女の子	本棚に本を戻しにいき、たまたまそこにいた手持ちぶさたらしい男の子に、ふと書架の2段目にあった『くまのバディントン』をしゃがんだまま読み始める。気に入れば手にとるか、とちゅうで離れていくかと思いきや、ずっと聞き
87	紙の絵本や本	1979年以前	公共図書館で	小学校低学年	男の子	子育て中、毎晩の読み聞かせはかかせないものでした。その日、文庫で、『百まいのきもの』の本を「いい本よ」と紹介されたので、夜の数冊の絵本の後、上の娘のために、文庫での話をして、読み始めました。しかし、数ページよんだあと、疲れていた私は眠くなり、読めなくなり、「明日続きね」と、読むのをやめました！翌日、帰宅したあとしばらくして、長女が寄ってきて、「お母さん、あの本もう読まなくていいよ！自分で読んだから」と、言いました。驚いている私に、「やっぱり、いいおはなしだったよ！」と、満足そうに報告してくれました。
88	紙の絵本や本	1990年代	家庭で	小学校低学年	女の子	兄弟で来て、同じ絵本を2冊借りていった。「ケンカせんでええやろ」と言っているのを聞いて、なるほど、と思った。
89	紙の絵本や本	2000年代	公共図書館で	小学校低学年	-	台所を締め切って、兄弟二人、『ムッシュ・ムニエルとおつきさま』のニッチモ博士とサッチモ博士の実験室のページを開いて、それを手本に、調味料や器具を並べて実験ごっこで遊ぶ。
90	紙の絵本や本	1990年代	家庭で	小学校低学年	男の子	小さい頃から図書館に来ていて、もう20歳前後になる男性に、子どもの頃に読んで思い出に残っている本があるかを聞いたことがある。彼は絵本の書架に行き、「おぼけのてんぷら」（せなけいこ ポプラ社）を私に見せて「たぶん、この絵本だったかな？」と言った。そして、匂いをかぎ、「間違いない、この匂いだ」と言った。彼は匂いで自分の読んだ本を記憶していたのである。
91	紙の絵本や本	1990年代	公共図書館で	小学校低学年	男の子	

児童図書館研究会 子どもと電子メディアを考えるプロジェクト

アンケート「子どもはどのように本を選び、読んでいるのか」回答一覧

事例No.	媒体	年代	場所	年齢	性別	事例を具体的にお書きください
92	紙の絵本や本	2020年以降	公共図書館で	小学校低学年	男の子	小学校1年生。小学校へ朝の読み聞かせに行った週末、勤務先の図書館に「こないだ読んでくれた本ある？」と借りに来てくれた。「自分で読んでみる？」と聞くと、「面白かったから、家族にも見せてあげたいんだ」とうれしそうに借りていってくれた。
93	紙の絵本や本	2010年代	ボランティアの場で	小学校低学年	男の子	放課後の子どもの居場所で。家庭が複雑で、一緒に暮らしながらも親や兄弟の温かみからほど遠い生活をしている小1の男子A君。B市では希望者に、放課後そのまま小学校を居場所として、みんなと遊び宿題をする取り組みが週に2日行われている。遊びの時間に、友達から外れてしまうA君は、ボランティアの大人に絵本を読んで、とせがむ。大人は、動きの激しい外遊びと部屋遊びの二手に見守りとして振り分けられるが、部屋に残ったA君は、こぞとばかり大人に構ってもらいたく「絵本を読んでほしい」とせがんだ。彼が選ぶ絵本は、最初、自分が一番読んで欲しい絵本、終わると「次はこの本」「次はこれ」と、時間が経つにつれて長いおはなしの絵本へと移る。一時でも自分から大人が離れないようにと願って。支援する大人のボランティアは人数が限られているので、A君にずっと付き合うことができないことも多かったのだが、絵本を読んでもらっている時の彼はまるで夢を見ているような表情であった。自分だけに絵本を読んでもらうことなど家庭では全くない、静かに絵本を読むことはできない環境に暮らすA君が、優しい大人がそばにいて読んでくれる、また、優しい大人の誰かと一緒に読むということは大変幸せな時間だったし、自分で静かに落ち着いて絵本を読むことができる時間が放課後の居場所にはあった。
94	紙の絵本や本	2000年代	公共図書館で	小学校中学年	-	男の子と女の子が来て「ももたろうの本をさがしている」というので、書架のところへ連れて行くと、男の子は「新・講談社の絵本」シリーズの昔風の本を選び、「こっちがいい！こっちの方が男前や！」と言う。女の子は福音館書店の絵本を選び「えー。こっちでいいやん」と言う。男の子は「おれは“イクメン”でいい！」と言って借りていった。二人の絵の好みが違うのがおもしろかった。
95	紙の絵本や本	2010年代	公共図書館で	小学校中学年	女の子	放課後友だちと公共図書館に来るたび、学校で読んだ本を探していた。
96	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	小学校中学年	女の子	お昼の放送のやかまし村を聴いて「一年生の弟が気に入ったから読んであげると借りて行った。他に読みたい子もいたので自宅の本を貸出したらその子のお母さんがとても感激していたと、別の学校司書から聞いた。
97	紙の絵本や本	2000年代	公共図書館で	小学校高学年	男の子	いつも首に赤いスカーフを巻いた男の子が来るたび乗り物の棚から飛行機の本を借りていた。
98	電子書籍	2020年以降	学校図書館で	小学校高学年	男の子	勤務している小学校の5年生の男子児童に、「スマホで漫画とか読む？」と尋ねた。複数の児童が「無料で読める漫画はいろいろ読むけど、有料のマークが出たら止める。無料のものしか読まない。」という。「この先を読みたいと思うけど、お金を払うことになったら親に怒られるから・・・」。誰のスマホで読むか尋ねると「親」という。親のスマホで無料漫画を読むと、答えた児童は、図書館から借りる本も「漫画で読む〇〇」というものが多いと感じる。字だけの本には気軽に触れていない。ほかの児童（本を読むことが大好きな男子）は、「電子書籍には自分が読みたいと思うものがない、紙の本の方が読みたいものがある」という。この児童は、厚い本であっても自分が興味あるならば抵抗なく借りていく。
99	紙の絵本や本	1990年代	公共図書館で	小学校中学年	男の子	岩波少年文庫の堅牢版のシリーズが新着棚に並んでいたとき、その中から1冊を借り出した男の子、それ以後ずっと、新着棚の少年文庫から選んで借り出していた。
100	紙の絵本や本	2020年以降	子ども文庫で	小学校中学年	女の子	昨年の秋頃「〇〇文庫」（家庭文庫）に来た小学3年生の孫が「本の部屋」の前で、突然「私、本の虫やねん」と一言（どうやら私は本を読みたいので邪魔しないでねという意味だったらいい）。その頃から「本はおもしろい、読みたい！」というスイッチが深く入ったようだった。聞けば学校でも（活発な子だが）休み時間が待ち遠しく、図書室へ行くのだと言う。誕生日のプレゼントには教科書で知った本などをねだる。二学期の終わりに「わたしの木」という宿題が出たが、孫は「お話の木」という絵と文章を書いた。絵は1本の木に本がたくさん描かれその本には自分がこれまでに読んだ本の題名が書かれている。文章は「△△の心の中にはお話の木があります。それは今まで読んできた本でいっぱいです。本を読むのはとても楽しいです。だからみんなにも読んでほしいです。これからも木の本をふやしていきます。」と書かれていた。
101	紙の絵本や本	2010年代	学校図書館で	小学校高学年	女の子	『時計坂の家』を手にしてじっと表紙を見ていた子に、横から友だちが「たかどのほこかなあ？」と声をかけていた。厚い本に躊躇していたが、友だちからの声かけが、高樓方子にすずむきかけになっていた。
102	電子書籍	2020年以降	家庭で	小学校中学年	男の子	低学年の頃から、マルチメディアデジターをときどき利用しています。読みに苦手意識が強く、活字図書の読書と併用しています。親の読み聞かせも続いています。お話そのものは好きで、デジターだと様々なレベルのお話を楽しめます。『冒険者たち』『ひりっかすの神様』などをデジターで聞いていました。 最近では、本好きの友だちのおすすめで、活字の読書もしています。『旅のはじまり』『選ばなかった冒険』など。 本好きの友だちが「読んでもらうより自分で読む方がよい」と言っていたようで、息子はとても驚いていました。読んでもらう方がずっと楽しめると、感じているようです。やはり、自分で読むと大変なのだと思います。 デジターがあることで、本に対してネガティブなイメージを持たずにすんでいるなど感じます。
103	紙の絵本や本	1980年代	公共図書館で	小学校中学年	男の子	放課後次々来る小学生が『ほしほしごぞう』という本を探していた。担任の先生からすすめられたという。よく聞くと『ほしいほしい小僧』のことだった。
104	紙の絵本や本	2000年代	学校の教室で	小学校中学年	男の子	男女ともにです。中学年と高学年です。べつシートがよかったかもしれません。 教室でブックトークを行いました。 また、子ども同士でグループを作ってブックトークをしました。紹介された本は、子どもたちはよく読みましたし、その後、本を自分で選ぶ際にも、作者つながり、テーマつながりで探す姿がありました。
105	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	小学校高学年	女の子	読み応えのある本をたくさん読んでいる女の子。もう少し背伸びしても大丈夫だと考え自宅の本を貸出している。現在、ステフィとネリシリーズを終え、バンダーウィツクの四姉妹に入っている。続編を手渡された時の彼女の嬉しそうな顔を見るとこちらも嬉しくなる。とてもシャイなのでその笑顔だけで充分だと思っている。

児童図書館研究会 子どもと電子メディアを考えるプロジェクト

アンケート「子どもはどのように本を選び、読んでいるのか」回答一覧

事例No.	媒体	年代	場所	年齢	性別	事例を具体的にお書きください
106	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	小学校中学年	女の子	「先生のおすすめ本を教えてください」と言って借りて行く。返却時に「続きもあるんだよ」と紹介すると借りて行ってくれる。リンドグリーン・エーミール、魔女学校の1年生シリーズ、チム・ラビットなど。
107	紙の絵本や本	2020年以降	子ども文庫で	小学校中学年	女の子	コロナ禍で、家庭文庫を開いていたときに、おすすめは？と聞いてきたので、5〜6冊紹介すると、30分くらい吟味し、3冊厳選して持ち帰りました。『けっこんしたからないリスのゲルラング』『森のなかの海賊船』『ユメミザクラの木の下で』
108	紙の絵本や本	1990年代	子ども文庫で	小学校中学年	女の子	小学3年生のとき、リンドグリーンの「やかまし村」シリーズを文庫ですすめてもらった。背文字が四角い感じで、表紙も堅そうな感じで、難しそうな気がして、それまで手に取ったことがなかったのだが、本を開いてみたら、自分でも読んで、しかもおもしろいので、とてびっくりしたことを覚えている。
109	紙の絵本や本	2000年代	公共図書館で	小学校中学年	女の子	長い物語の好きな4年生の女の子になにかおもしろい本がないか聞かれ、『お姫さまとゴブリンの物語』（岩波少年文庫）をすすめた。少女漫画のような表紙に、ちょっと引いた様子だった。自分も子どもの頃に同じ反応をしたことがあるので、その気持ちがよくわかり、中の挿し絵は違う人だから大丈夫、と見せたところ、借りていった。気に入ったらしく、後日、続編の『カーディとお姫さまの物語』も借りて来た。
110	紙の絵本や本	2010年代	公共図書館で	小学校中学年	男の子	学校でコウトリを飼いたいので、と友だちとコウトリの飼育の本を探して借りていった。食肉の本を見せると、これではない、と戻された。
111	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	小学校中学年	男の子	学校図書館で4年生の男の子から「手話の本はどこにありますか？」と尋ねられました。理由を聞くと「今、給食の時間が黙食だから、何かコミュニケーションがとれないかと思って。」と答えてくれました。3類の本棚と一緒に行き、何冊かを紹介しました。その後、その中の1冊を借りていきました。
112	紙の絵本や本	1990年代	家庭で	小学校高学年	-	小学6年生の時（1996年頃）、それまでは漫画や、漫画のような挿絵のついたライトノベルズばかりを読んでいたが、たまたま家の本棚に並んでいた『モモ』をなんとなく手に取り読み始めた。冒頭から引き込まれて読みふけたが、あまりの面白さに、ずっとこの物語の世界に浸っていたいと思ひ、後半以降は、ページの残りを気にしながら、毎晩少しずつ読んだ。読み終わってみると、本の表紙にあるお世辞にもかわいいとは言えないモモの後ろ姿に、何とも言えない親しみがわいた。子ども心に、この本はこれまでに読んでいた本の隣には並べたくないと感じて特別の場所を作った。
113	紙の絵本や本	2010年代	公共図書館で	小学校高学年	男の子	YouTuberが紹介していた自己啓発本を小学生が探していた。
114	紙の絵本や本	2000年代	家庭で	小学校中学年	女の子	友だちが漫画雑誌なかよしを貸してくれた。付録で、はやみねかおるさんの『そして五人がいなくなる』の前半を漫画化したものを読み、続きが読みたくて、図書館で原作を借りて読んだ。初めて物語の本を読むきっかけになった。
115	紙の絵本や本	2000年代	公共図書館で	小学校中学年	女の子	『エルマーのぼうけん』はどこにあるのか？と聞きに来た子どもに場所を教えると、3冊まとめて持ってきた。私が読む順番を教えると、「うん。知ってる。一回読んだもん。」と言う。「そうか。もういっかい読むんやね」「うん。ええ本は何回読んでもええんやで」と言っていた。
116	紙の絵本や本	1980年代	公共図書館で	小学校高学年	男の子	ナルニア国物語6『魔術師のおい』を借りようとしていたので、『ライオンと魔女』が最初だと声をかけると、「知ってる。前はシリーズの順番に読んだ。こんどは作者が書いた（年代記？）順に読もうと思って。」
117	電子書籍	2020年以降	家庭で	小学校高学年	女の子	電子や紙への以降してきた経緯を報告します。小学生時代は絵本や折り紙の作り方の本などを好み、文章を読み通す読物は手に取りませんでした。＜1＞2020年3月（小5）。コロナ禍で休校になったためKindleを購入。Unlimited（読み放題）を契約。読んでいた本は、ドラえもんなどの漫画、角川つばさ文庫。＜2＞2021年3月（小6）。Unlimited無料が1年間で終了。ベネッセのタブレットを使用していたので「まなびライブラリー」を読み始める。加えて紙の本も手に取るようになる。電子媒体では、角川つばさ文庫やノンフィクションなどいろいろ。紙の本では、『ペニーの日記読んじやだめ』（ロビン・クライン／作 アン・ジェイムズ／絵 安藤紀子／訳 偕成社）。＜3＞2022年3月（中1）。媒体は紙の本へ。読んでいた本「カッレくん」シリーズ、『ワンダー』。欄外コメント：娘は「細かい文字は苦手」と言っていたのでディスプレイかと思ったこともありましたが、今はそのような困難さは見られません。（コロナ禍で休校になりKindleを購入）ただ、電子で読んで文字の大きさをかえたりしながら読むことに慣れていったのかもしれない。紙の本に最初苦手意識がある場合、電子もなんらかの助けになるのかなと感じています。
118	電子書籍	2010年代	家庭で	小学校中学年	女の子	姪がコロナ禍で、某通信教育の教材で電子図書館が入っているタブレットを手に入れた。いわゆる普通の電子書籍ではないが、電子図書館に入っているグラフィックノベルみたいなものを読んでいた。その読み方がパラパラと見ると一話が短くて、はいおしまい。次の話。パラパラ、次へ…。同じ話を次々に読んでいたのかと思ったら、そうではなくて、パラパラみたら次の本、ササササと読んだら次へ…。彼女が本棚で背表紙を見て、中を見て1冊を選ぶ動きと違い、そのタイトルの飛び方、選び方のスピード感に驚かされた。
119	紙の絵本や本	1980年代	公共図書館で	小学校中学年	女の子	「グリム童話集」の「三人の旅職人」のページを開いて見せて、三人の貧しい職人が悪魔と約束をし、「わしら三人とも」「お金で」「そのとおり」と言うことで、最後に宿屋の主人の悪事をあばき、悪魔がその魂を手に入れる、構成のすごさ、みごとなさを詳しく話してくれた。
120	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	中学生	男の子	読みたい本をどのように探しているか聞いてみたところ、書店や学校図書館、公共図書館で展示してあるものや本棚にあるものからタイトルや表紙が気になるものを抜き出し、中身を少し読んでみて興味が持てるかどうかで選んでいるとのことでした。ネットの「中学生向け○○な気分の時に読みたい本」などのサイトや、YouTuberによるおすすめ動画は使わないのが聞いてみると、あまり使わないとのことでした。理由を尋ねると、ネットやYouTubeでおすすめされている本は、予約がたぐさあつたり借りられていることが多いので、読みたいと思って読めないことが多いからとのことでした。
121	紙の絵本や本	1990年代	とくになし	中学生	女の子	自分の中学生時代、なにかおもしろい本が読みたいと思って、どんな本がおもしろいのか、手掛りが全くなかった。朝練・昼練・放課後と部活ばかりしていたので、学校の図書室に行く時間も、公共図書館は広すぎて、どこにおもしろい本があるのか、誰に聞けばいいのかもわからない。書店でもらえる新潮文庫や角川文庫の夏のパンフレットや、読んだ本の巻末にある他の本の紹介などを手掛かりにしていた。
122	電子書籍	2010年代	家庭で	高校生	女の子	電子辞書を授業中の隙間時間にいじっていて収録されている文芸作品を読んでいた。太宰治、梶井基次郎など短編をよく読んだ。

児童図書館研究会 子どもと電子メディアを考えるプロジェクト

アンケート「子どもはどのように本を選び、読んでいるのか」回答一覧

事例No.	媒体	年代	場所	年齢	性別	事例を具体的にお書きください
123	電子書籍	2010年代	家庭で	高校生	女の子	姉が近代文学を元にしたWEBマンガを読んでいたため、自分も読み始めた。そこから近代文学に興味をもつようになり、調べているうちに青空文庫を知った。当時は学生だったこともあり、無料で幅広い文学作品に触れられる青空文庫は利用する機会が多かった。
124	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	中学生	-	女子生徒にスタート出版文庫が人気です。このシリーズは元々ケータイ小説のようです。しかし中学生はスマホの使用に制限がある場合も多く、紙の本で楽しむ生徒が多いです。値段も安価なので、おこずかいで毎月のように買えるようです。また、youtuberやyoutubeでの経？由ゲームと連動した本は男子にも女子にも好まれ、おすすめ本に選ばれることも多いです。他の電子メディア媒体のものをかみにしたものを本で読むことをしています。活字を読む本という形を手にとって読むという行為は好んでいるように見えます。個人的にはそのような本からどのように文学作品などにステップアップしていけるのか悩む日々です。
125	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	中学生	女の子	アニメ化されることが、小説を読むことにつながっている。
126	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	中学生	女の子	「小説家になろう」のような無料で読める電子書籍を書籍化した本のリクエストを受ける。サイトで書籍化を知って、本で読みたいとリクエストしてきた。
127	紙の絵本や本	2010年代	公共図書館で	中学生	男の子	自分は今14歳だから、とタイトルに14歳とついている本を選んで借りていた。
128	紙の絵本や本	2010年代	家庭で	中学生	女の子	学校図書館で夏目漱石の『こころ』を借りて読むと、文章がとても読みやすかった。そこから夏目漱石を読み始め、他の作家にも広がった。
129	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	中学生	女の子	本好きな子にこれ読んでみて『妖精デッキのたたかい』を手渡した。返却時「こういう本、好きです。自分じゃ、わからないから…」と伝えてくれた。
130	紙の絵本や本	2020年以降	家庭で	高校生	男の子	我が家の3人の子ども（24歳女、21歳女、17歳高校生男子）がいる。高校生は、姉二人に「面白い（紙の）本はない？」と尋ねると、決まってすぐに何冊かの本を薦めるのは、長女。長女が買い求めた紙の本を息子は読んで楽しんでいる。さらに我が家には読書好きの父親が無造作にあちこちに本を置いている。子どもたちは、父親に本を薦められたり、同じ本を読んだ感想を言い合っている。また、子どもたち3人は、まず電子書籍で漫画を読み、とても面白かったものは「紙で読みたいから」と紙の本で購入している。それぞれ好きな漫画があり、電子書籍でも紙の本でも薦めあっている。
131	紙の絵本や本	2010年代	学校図書館で	中学生	女の子	毎日3冊づつ借りて行く子がいた。ずっと本を読んでいるらしい。ものすごいスピードで。中学生も読めるような大人の小説からYAまで手渡していった。その頃もっと私に児童書の知識があったら、今持っている本の知識があったらもっと読んで欲しい本があったのと思う。
132	電子書籍	2020年以降	家庭で	中学生	女の子	電子書籍では何冊読んだか一目でわからない。紙の本だと、積み重ねて置けるので、冊数が増えると達成感を感じる、との意見があった。
133	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	中学生	女の子	読みたい本をどのように探しているか聞いてみたところ、書店や学校図書館、公共図書館で展示してあるものや本棚にあるものからタイトルや表紙が気になるものを抜き出し、中身を少し読んでみて興味が持てるかどうかで選んでいるとのことでした。ネットの「中学生向け〇〇な気分の時に読みたい本」などのサイトや、YouTubeによるおすすめ動画は使わないのか聞いてみると、あまり使わないとのことでした。理由を尋ねると、誰かのおすすめしているものは、その人と自分の趣味が合うか分からないし、自分で自分の面白いと思うものを選びたいからとのことでした。
134	紙の絵本や本	1980年代	公共図書館で	高校生	女の子	アーサー・ランサム全集の棚の前で制服姿の高校生が3人、話をしている。ナンシー、スーザン、ベギー、ティティと漏れ聞こえ、訊いてみると、自分たちそれぞれに名前をつけている由。このうちの一人は長じて夫君とともに帆船で港々をめぐる航海をすることに。
135	紙の絵本や本	2020年以降	学校図書館で	中学生	女の子	「スマホでタダで読めるけど、やっぱり本で読みたいんだよね。」と言って、「小説家になろう」から書籍化された本を借りていった。 (補足) 本人に発言の真意を確かめられました。紙の本が好きなのだそうです。匂いとか手触りとか。「小説家になろう」は書籍化されるときに、話の内容が変わることが良くあるのですが、それが理由ではないそうです。
136	電子書籍	2010年代	家庭で	高校生	女の子	高校3年生。県外への進学が決まり、一人暮らしをすることに。大好きな(思春期を共に過ごした)本達を、持って巣立ちたかったが、物理的に難しかったため、タブレット端末を購入。好きな本は、電子でタブレットに詰め込んで、新生活をスタートさせた。